

災害時の TEC-FORCE 等専門家派遣及び技術支援活動状況

1. はじめに

近年、自然的インパクトが局地化・集中化・激甚化していることは既に認識され、ハード・ソフト対策を総合し、被害を最小化するための取組みがより一層強く推進されてきている。そのうち、有力な手段の一つとして、国土交通省は平成20年にTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）を創設し、被害の発生・拡大の防止や被災地の早期復旧等を目的として、その活動を積み重ねてきている。

2. 国総研のTEC-FORCE等活動

国総研より派遣するTEC-FORCEは、日々の研究等による蓄積をバックボーンに、専門家として判断がより複雑あるいは難しい事象や被害を主な対象とした『高度技術指導班』として活動する。主な役割は被害状況の調査や施設の安全性評価に加え、二次災害防止のための高度な判断に基づく助言などである。

平成29年7月の九州北部豪雨では、大規模土砂崩壊地調査、河川管理施設被災調査など、それぞれの被

災に対応する分野の専門家を派遣した。

TEC-FORCEとしての活動以外にも、被災地の地方公共団体や地方整備局等からの要請に対し、迅速に専門家を派遣し、技術的支援活動を継続している。また、自主調査も積極的に行い、防災・減災に関する技術力向上のための活動も行なっている。（派遣実績は、表参照）

3. 活動の貢献への評価

平成27年9月関東・東北豪雨に対する、国総研からも隊員を派遣した国交省全体のTEC-FORCE活動について、平成29年9月に平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰を受けた。

また、「平成28年熊本地震」、「平成28年台風第7号及び8月20日からの大雨」、「平成28年台風第10号」それぞれに対する国総研のTEC-FORCE活動が評価され、平成29年6月に（一社）全日本建設技術協会より、平成28年度全建賞の表彰を受けた。

表 平成29年(1～12月)専門家の派遣実績

●平成29年7月九州北部豪雨

部・センター、課室及び役職		氏名	派遣期間	
河川研究部	部長	天野 邦彦	7/8	
	河川研究室	室長	諏訪 義雄	
		主任研究官	福島 雅紀	7/8, 7/27～28
	水害研究室	室長	板垣 修	7/8
		主任研究官	武内 慶了	8/4
		研究官	西 広樹	8/4
土砂災害研究部	深層崩壊対策研究官	萬徳 昌昭	7/8～12	
	砂防研究室	室長	桜井 亘	7/12～16
		主任研究官	内田 太郎	7/16～20
		研究官	松本 直樹	7/12～16
		研究官	高原 晃宙	7/19～22
	(併)	本田 正晃	7/12～16	
	土砂災害研究室	室長	野呂 智之	7/16～21
研究官		村田 郁央	7/8～12	
研究員		鈴木 大和	7/12～16, 7/20～23	

●6月30日からの梅雨前線に伴う大雨及び台風第3号

部・センター、課室及び役職		氏名	派遣期間	
道路構造物研究部	構造・基礎研究室	室長	間渕 利明	7/7
		主任研究官	藤山 一夫	7/7
	道路基盤研究室	研究員	真野 健太郎	7/7

●長野県伊那市国道斜面崩落

部・センター、課室及び役職		氏名	派遣期間	
道路構造物研究部	道路基盤研究室	室長	久保 和幸	1/20

●京都府福知山市国道9号法面コンクリート落下

部・センター、課室及び役職		氏名	派遣期間	
道路構造物研究部	道路基盤研究室	室長	久保 和幸	5/2

●長野県飯山市土砂災害現地調査

部・センター、課室及び役職		氏名	派遣期間
土砂災害研究部	深層崩壊対策研究官	萬徳 昌昭	5/23

研究動向・成果

●台風第21号

部・センター、課室及び役職		氏名	派遣期間
土砂災害研究部 砂防研究室		主任研究官 木下 篤彦	10/30
道路 構造 物研 究部	構造・基礎 研究室	主任研究官 藤山 一夫	10/27～28
		研究官 木村 崇	10/27～28
	道路基盤 研究室	研究員 真野 健太郎	10/27～28

●大阪府堺市下水道陥没

部・センター、課室及び役職		氏名	派遣期間
下水 道研 究部	下水道機能復旧研究官	横田 敏宏	10/25～26
	下水道 研究室 主任研究官	深谷 渉	10/25～26

●尾道自動車道法面変状

部・センター、課室及び役職		氏名	派遣期間
道路構造物研究部 道路基盤研究室	主任研究官	木村 一幸	12/27

※災害直後の緊急的対応のみを掲載し、その後継続的に行われた応急復旧・本復旧に関する技術支援等は省略している。

※派遣者欄には、該当する国総研職員のみを記載している（所属・官職は派遣時のもの）。